



2021 November

No.591

地域がん診療連携拠点病院・基幹型臨床研修病院・協力型臨床研修病院・地域医療支援病院・災害拠点病院・熊本DMAT指定病院・救急指定病院

**理念** 140年の歴史と設立の経緯を忘れず全人医療を提供します

### 基本方針

#### 患者中心の医療

患者の人権と意思を尊重します

#### 診療3本柱

がん・救急・予防医療を中心に医療機能の充実を図ります

#### 完結型医療

地域の医療機関と連携し安心できる医療の展開を行います

#### 地域包括ケア

地域包括ケアシステムを推進し地域のまちづくりに貢献します

#### 社会貢献

災害医療派遣・医療情報公開・医療ボランティアの活動を行います

#### 医療人育成

地域医療に貢献できる医療人の育成を行います

## 第6波に備えて

## ～自宅療養感染者への感染対策をすすめる～



個人防護具 着脱訓練



個人防護具 着脱訓練

現在、世界各国で新型コロナウイルス感染症の感染数が急増しています。国内でも新型コロナウイルス変異株（オミクロン株）への感染が確認されており、今後、感染拡大が危惧されています。

ようやく収束した第5波では、県内においてもデルタ株の影響により想定を上回る感染拡大となり、自宅療養者が増加し、自宅で適切な医療を受けられず亡くなる方が発生しました。

ワクチン接種が進んだことにより重症化率は下がりましたが、今後、医療提供体制は自宅・宿泊療養者を中心に強化を進めていくことも必要になります。

そこで、令和3年11月1日に熊本県球磨総合庁舎寺町別館（旧熊本県人吉保健所）にて人吉・球磨の両医師会協力の下、新型コロナウイルス感染者に関わる可能性のあるかかりつけ医や在宅医等の27医療機関56名の従事者を対象に、二次感染防止能力の向上として個人防護具の着脱訓練やマスクフィットテスト等を実施させていただきました。

施設ごとに様々な形状の個人防護具が整備されているため、今回は、実際に自施設の防護具を使い、より実践に近い訓練を行いました。施設によっては単回使用にできない防護



N95 マスク フィットテスト

具もあり、着用順・着脱後の管理を一緒に考えることができました。

今後の新型コロナウイルス感染拡大に備え、自宅療養感染者が安心して医療を受けられるよう、医療者自らの感染を防止し、さらに、感染の媒介者とならないような個人防護具の着脱を実践していただきたいと思います。

感染管理認定看護師 別府 るみ

## 出前講座

## 熊本大学 名誉教授 片渕 秀隆先生講演 ～相良村中学校性教育講演会～

令和3年11月17日（水）相良村中学校性教育講演会で当院産婦人科外来でも診察をしていただいております熊本大学 名誉教授 片渕 秀隆先生より「人として生まれ 相良村で生きている奇蹟を考えてください。ー産婦人科、子宮、妊娠、がんのことをどのくらい知っていますか？ー」をテーマに相良村中学校の約100名の生徒さんへ講演をしていただきました。「命の大切さを知って欲しい」想い強く言われ、先生の豊富な知識やこれまでの経験から産婦人科、子宮、妊娠、がんについて丁寧に説明をしていただきました。普段目にすることがない動画や画像も流してもらい、生徒さんにとってはびっくりされたかもしれませんが、とても勉強になられたのではないかと思います。是非ご家庭にも持ち帰って、親御さん等と一緒にご家庭で話し合ってくださいことも願っております。

最後に相良村中学校の竹田校長先生、養護教諭織田先生、生徒保健委員会の生徒さんを中心に講演会の準備をしていただき、温かいおもてなしをしていただきありがとうございました。

相良村中学校生徒さんから受講後の感想をいただきましたので、掲載をさせていただきます。

医療福祉連携室 田頭 隼人



### 【相良中生徒感想】

今日は、私たちのためにお話をしてくださりありがとうございました。私は、3ヶ月早く生まれてきた赤ちゃんとそのお母さんの話が印象に残りました。赤ちゃんとお母さん2人の命を守るために、多くの人に関わって、今も元気に過ごしているという話を聞き、私の命も多くの人の支えがあって生まれてくることが出来たんだと思います、感謝し、この命を大切に生きていきたいと思いました。正しい知識をもち、人それぞれの違いを大切にしていきたいと思いました。

相良村立相良中学校 3年生

## HMC 認定看護師会主催研修会「地域の看護師支援を目指して」

「地域の看護師を支援する」という大きな目標を胸に私たち人吉医療センター認定看護師会では研修会を開催しています。令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止しましたが、今年度は初めてのWeb研修会を開催しました。テーマは「新型コロナウイルス」です。人吉市内でCOVID-19後方支援施設に勤務する看護師11名に対し、事前アンケートをもとに眞田感染管理認定看護師は「個人防護具」、別府感染管理認定看護師から「医療体制」、杉松救急看護認定看護師はアナフィラキシーを中心とした「急変対応」、そして渡辺認定看護管理者より「メンタルヘルス」「組織管理」の講義と意見交換会を行いました。Web上での意見交換会は、不安もありましたが、質問も多く活発な意見交換会となりました。また渡辺看

護部長からのメッセージには涙し嬉しかったという意見も聞かれ地域の看護師がとても不安を抱えながら看護されている現状を知ることができました。

研修会後のアンケートでは全員が「業務に活用できる」と回答されました。今後も認定看護師会では地域の看護師を支援できるような研修を行ってまいります。



手術看護認定看護師 村上 陽子

## 地域医療研修 in 朝戸医院

9月に鹿児島県の沖永良部島にある朝戸医院に地域医療・離島研修に行きました。

コロナ禍の中であり、島内にコロナ患者0ということもあったため、2回のPCR検査を受け厳重な対策で入島しました。

研修先の朝戸医院は外来と入院病床をもつ診療所です。島内の医療資源は限られ、脳卒中や心臓発作の場合はヘリコプターやセスナ機で沖縄や鹿児島本土に転送となります。

医院では除痛目的のトリガーポイント注射、関節痛のためのヒアルロン酸注射、耳鏡や細隙灯を使った耳鼻科・眼科診察、怪我での処置、門前薬局での研修、救急車同乗実習など、たくさんの方を経験させていただき、充実した研修を送ることができました。一番印象に残っていることは、最善の治療よりも、



朝戸医院



患者・家族の希望を尊重するインフォームドチョイスによる診療が大切なことでした。

また、島の自然・文化を堪能することもできました。

この研修で感じたこと学んだことを、今後に活かして日々の診療に励んでまいります。

臨床研修医 笹栗 誠





## 人吉市総合防災訓練に参加しました ～人吉医療センター DMAT・アマチュア無線クラブ～

10月17日、豪雨災害を想定した人吉市総合防災訓練が開催され、自衛隊からラフティング協会その他多くの関係機関が参加した訓練があり、当院はDMAT（災害派遣医療チーム）隊員4名とアマチュア無線クラブ3名が参加しました。

### 【人吉医療センター DMAT 訓練】

DMATは、球磨川の中洲にある中川原公園で展開、この公園は、市民の憩いの場でしたが昨年の豪雨により無残に破壊され現在も立入禁止の区域となっています。

訓練では、まず消防が重機を用いて家屋の材木を取り除き、警察と消防団がスコップで土砂を掘って埋まった人形を探し出し消防団が担架でDMATの救護所に搬送、そこからDMATが定められた手順で診察・可能な処置を行い病院へ運びます。1体は「クラッシュ症候群」の診断で搬送、もう1体は死亡で搬送せず、との想定で行われました。

クラッシュ症候群は救急医療の現場では見逃せない重要な疾患です。災害や事故などで長時間身体が潰されていると筋細胞の壊死が生じ、その後救助され圧迫状態から解放されると壊死した筋細胞から発生した成分が血流に乗って全身に運ばれ、急性腎臓障害や心停止を起こすことがあり適切な処置が必要となります。DMATは、「ABCDEクラッシュ」という定められた手順を唱えながら患者さんを診察し、クラッシュ症候群を見落とさないように訓練されています。

今回の訓練のように土砂にまみれた状態だと身体に傷があるかどうかすら分からず、点滴するにも血管が見えません。土砂を洗い流すための水の準備も必要だと確認でき、これだけでも今回の防災訓練の意義があったと感じました。

総合診療科 渡邊 龍太郎

### 【アマチュア無線訓練】

当院は、東日本大震災のとき通常の通信手段は使えず、有効なツールは数回通信ができた衛星携帯電話のみでした。この経験から、情報通信設備強化のためアマチュア無線を導入し後方支援ツールとして活用しています。

今回は人吉市総合防災訓練アマチュア無線クラブと連携、JG6YID 人吉医療センター無線局から総務企画課が交信を担当し市本部や避難所のクラブ員と情報交換や新たに令和2年豪雨災害後に設置された五木村役場のアマチュア無線クラブと初の交信を行いました。訓練開始後なかなか通信ができず人吉市総合防災訓練アマチュア無線クラブの方が五木村へ駆けつけけるなどハプニングはありましたが五木村との交信も行うことができ、当院が指定管理者である五木村診療所の施設情報を早期に入手できる運びとなっております。

今後も地域のアマチュア無線クラブの協力を得ながら災害拠点病院、地域の中核病院として多くの地域と皆様の繋がりを大切にしていきたいと思っています。

総務企画課 中村 佑希



## 11月11日は介護の日

2000年に介護保険が施行され、20年以上が経過しました。要介護・要支援認定者数は2021年2月末で666万人（第一号被保険者のみ）に達しています。（厚生労働省「介護保険事業状況報告 月報（暫定版）」より）

それに伴い、介護保険によるホームヘルプサービスやデイサービスなどの利用者数も増加し、介護サービスは身近なものとなりつつあります。

しかし、介護を受けながら自宅で過ごすことは一般的になりつつありますが、医療を受けながら自宅で過ごすことはまだ一般的とはいえない状況です。

訪問診療や訪問看護といった医療系サービスも身体の状態に応じて介護保険や医療保険を使い分けながらご自宅で受けていただくことが可能です。

人吉医療センターでは、地域の訪問診療実施医療機関や訪問看護ステーションと連携しながら、できるだけ自宅で過ごしたいという患者さんの希望に添えるように訪問診療、訪問看護をおこなっています。

また、地域在宅医療サポートセンターとして地域の在宅医療を担う医療機関の先生方や介護サービス提供事業者の方とカンファレンスを行い、連携しながらこの地域の在宅医療の発展の一助となるよう取り組んでいます。

球磨地域在宅医療サポートセンター / 人吉医療センター

## エホバの証人 ～医療上及び倫理上の課題～

エホバの証人の医療上及び倫理上の課題をテーマに、11月15日（月）当院の医療安全委員会においてWeb研修会を開催し、エホバの証人の医療機関連絡委員会の谷嶋さんより講演をいただきました。

エホバの証人は、聖書に「血を避けるように」と記されているため輸血を受け入れません。しかし、アルブミンや凝固因子、フィブリノゲンなど血液の分画に関しては、受け入れるかどうかはエホバの証人各自が個人的に決定しているそうです。また、術前に自己血を採取して貯蔵し、後ほど当人に輸血する場合受け入れませんが、血液希釈や人工透析、心肺バイパス、血液回収装置を用いる場合には受け入れる可能性があり、十分なコミュニケーションが必要とのことでした。

コミュニケーションが図れない緊急時には、その備えとして本人の意思が分かるよう医療に関する永続的委任状を活用し、これを折りたたんで首から下げたり、財布の中に入れてたりして絶えず携帯しており、法的証書として法的な問題も避けられるとのことでした。委任状の中には代理人ともすぐに連絡が取れるように連絡先の記載もあるそうです。

エホバの証人への医療の提供について、医師と患者の橋渡しをするために医療機関連絡委員会という世界的なネットワーク



が構築されており、全世界で1,700の委員会が組織され、そのうち日本では54の委員会があり、医師同士の相談や照会の手配、著しく治療が困難な場合の移送先の病院の紹介、患者と医師からの問い合わせなど24時間いつでも対応をされているとのことでした。

ウェブサイト上の臨床医向け資料 [www.jw.org/ja/medical-library](http://www.jw.org/ja/medical-library)

P u b M e d及び医学雑誌にリンクするウェブサイトを提供されています。

エビデンスに基づく資料や付加的な資料を閲覧することができます。

医療福祉連携室 野々上 真一

## アルコール依存症 ～地域での取り組みと連携体制～

コロナ禍が長引く中、ストレスからアルコール摂取量が増え、アルコール依存症や飲酒運転などが社会問題となっています。

2020年度にアルコール中毒関連で当院の救急外来に搬送された患者は9名（うち入院3名）、主病名や併存病名にアルコール依存がある患者は54名（うち入院33名）となっています。

この数字が全国的に多いのか少ないのかは不明ですが、人吉球磨地域は昔から、いわゆる「酔っ払いに寛容な地域」とであるという話を聞かことがあります。お酒の上でのちょっとした笑い話にできる失敗談であれば良いのですが、病院に搬送されるようになると笑い話では済まされません。

HMCでは、アルコールの問題を抱える方には、アルコール依存症は治療が必要な疾患であることを説明し、アルコール依存症の治療が可能な精神科の医療機関受診の調整や情報提供をおこなっています。

2014年に施行されたアルコール健康障害対策基本法に基づく、「アルコール関連問題啓発週間」が2021年も11月10月から11月16日実施されます。

人吉球磨地域においてもアルコール依存症者の自助グループやアルコール・ギャンブル問題への相談が可能です。

もしかしたら、自分や家族がアルコール依存症かもしれないと思ったらまずは、相談してみましょう。



アルコール・ギャンブル問題への相談  
地域生活支援センター翠

TEL 0966-22-2570（平日8：30-17：15）



## 熊本県立球磨支援学校高等部 現場実習受け入れ 医療機関の現場で実際に体験

令和3年10月18日から10月29日までの10日間、当院看護部に熊本県立球磨支援学校高等部の生徒さんの現場実習受け入れをさせていただきました。今回の実習目的としては、実社会での就業活動に参加され、社会経験を広げ、働く力や態度、習慣を身につけてもらうことや職場での良好な人間関係を形成するように努め、社会人としての望ましい生活態度や行動を身につけていただくこと等を目的に実際に医療機関の現場で、寝具シーツや術衣たたみ、ゴミ集めや車いすの清掃などの環境整備のお仕事をさせていただきました。慣れない事が多かったと思

いますが、積極的に関わっていただき、様々なことを学んでいただけたのではないかと思います。今後の生徒さんのご活躍を期待しております。

当院では、共生社会の実現に向けて、障がいがある方でも健常者と同じように働き、活躍できる職場を目指し、これからも地域社会に貢献できるよう努めて参ります。

医療福祉連携室 田頭 隼人

## 療養介護員 業務紹介 ~このようなところで活躍しています~

療養介護員とは、看護師の指示のもと主に療養上の世話と診療の補助にかかわる業務のうち看護の専門的判断を要しない看護の周辺業務を実施する看護チームの一員です。

一定の知識、技術を有しており、日頃より研修会等にて技術の習得と研鑽に努めています。

このたび、初めて4月から夜勤勤務が開始されました。

試行錯誤で半年が過ぎましたが、夜勤帯の高齢患者のお世話や見守りなど夜勤看護師の負担軽減と同時に患者さんの見守り

による安全確保ができ、看護師からの「ありがとう、助かった。」という言葉がやりがいに繋がっています。

当院では、療養介護員として私たちと共に働いていただける方を募集しております。

相談により個人の希望する勤務時間が可能ですので、まずは当院へご連絡下さい。

療養介護員 鶴口 ゆき子



## くま川サロン 再開

2021年11月17日13:30から患者図書室 もちの樹にてくま川サロンを開催致しました。

くま川サロンとは、人吉球磨地域で、がん患者さんや支える方々などが悩みや体験談などを語り合い、情報交換できる場として立ち上げた患者会です。定期的な開催をしていましたが、水害後やコロナ感染症拡大防止のために活動をお休みしていました。コロナ感染症も落ち着いた為、今回、感染拡大防止に努めながら久しぶりに開催致しました。患者さん、ボランティアさん含め8名の方にご参加いただきました。まず初めに参加者の方より近況報告を兼ねて自己紹介をしていただきました。その後、アロマセラピーの竹下久美さんに教わりながら、マスクブレーとブーケガルニを作りました。

マスクブレーには、抗菌・殺菌効果を持つティーツリーと、清々しい香りで同じく抗菌・抗ウイルス効果を持ち抗炎症作用にも優れているといわれるユーカリを使いました。携帯用にも便利なペン型のボトルブレーなのでいつでもどこでもアロマの香りでリラックスしながらウイルスから守られるという一石二鳥のマスクブレーができあがりました。

そして、ブーケガルニをご存じですか？私は初めて耳にした言葉です。ブーケガルニとは、肉料理や魚料理の臭みを消したり、風味付けのために用いる香草類を束ねた物です。今回は、レモングラス、パセリ、ローズマリー、バジル、ミント、トウガラシ、ローリエなど、沢山のフレッシュハーブの中から、先生に教えてもらいながら、数種類組み合わせた物を2つ作りました。

残りのハーブは吊り下げタイプにし、キッチンに下げて保存



とおしゃれさ、実用性を兼ね備えたものができあがりました。実際に使ってみました、ポトフやシチューがブーケガルニを用いる事でひと味もふた味違う深みのある一品に生まれ変わりました。

久しぶりに顔を合わせ、良い香りに包まれながらする作業はおしゃべりが弾み、笑いが絶えませんでした。コロナ禍での開催を躊躇していましたが、今回、皆さんとお会いでき、お話できたこと大変嬉しかったです。次回も皆さんに喜んでいただける会を計画したいと思います。参加希望の方は案内状を郵送いたしますのでご連絡ください。

人吉医療センター 相談支援センター 杉松 紗織

## 那須歯科医院（登録医）移転のお知らせ～令和2年7月豪雨を経て～

当院の登録医でもある那須歯科医院が被災後、移転建て直しをされ、令和3年9月6日より復興開院をされました。お父様が創設され昨年100周年を迎えた地を離れられ、新たな移転先は当院からも近い人吉市灰久保町で開設されました。通りに面した場所で分かりやすく、医院前にはバス停留所 人吉橋があり、駐車場から院内までは、長いスロープを設置されており、車いすの方でも出入りしやすくなっています。

診療、受診等につきましては、那須歯科医院へお電話にてお問い合わせ下さい。

### 那須歯科医院

○高齢者健康歯科教室 ○予防歯科教室

新住所：熊本県人吉市灰久保町 19-2

連絡先：TEL：0966-22-5048

FAX：0966-22-0155



## 連携施設 探訪

当院では、みなさんが住み慣れた地域で安心して生活していただけるよう、人吉・球磨地域の医療・福祉機関と連携して地域包括ケアを推進していきたいと考えています。そこで、地域の社会資源を周知していただくため、連携施設をご紹介します。今回は、「地域密着型特別養護老人ホーム 桜なみき（868-0701 熊本県球磨郡水上村岩野 2649-1）」さんです。

### 地域密着型特別養護老人ホーム 桜なみき Vol.44

#### 【施設の特徴】

住み慣れた地域で家族のような生活環境を提供します。この地域で初めて誕生した、地域密着型特別養護老人ホーム桜なみき。

その名のとおり、ご利用は長年この地域で生活してこられた高齢者の方を対象にしています。3階建てですが、入居定員が29名と小規模の施設であり、全室個室のユニットケアを導入し、ご利用者お一人お一人の個性に合わせた支援を専門の教育を受けたスタッフが実践しています。明るく開放的なホールではご利用者同士、また、ご家族様との談笑が常に響いています。

#### 【サービスの内容】

施設サービス（入所）

#### 【対象者】

水上村・湯前町・多良木町・あさぎり町にお住まいの要介護3～要介護5の方が入居できます。

要介護1～要介護2の方については特例での対応となります。



#### 【地域の皆様に一言】

「住み慣れた地域の中で今までと変わらない自分らしい生活を私達が支えます」の理念の下、入居者の方が安心して楽しい生活を送ることができるよう職員一同頑張っています。また、地域に根付いた開かれた施設を目指しています。いつでも遊びに来て下さい。

#### 【お問い合わせ】

桜なみき：0966-44-0020 生活相談員 椎葉智美

※当院は、みなさんが住み慣れた地域で安心して生活をしていただけるよう、人吉・球磨地域の医療・福祉機関と連携して、地域包括ケアを推進していきたいと考えています。



## 豪雨災害から復興を願って 2年ぶり人吉花火大会

令和2年7月豪雨から1年4ヶ月が経った10月24日に人吉花火大会が開催されました。約3000発の花火が当院からも近い球磨川の中川原公園から打ち上げられ、人吉の夜空を彩りました。新型コロナウイルス感染防止のため、観覧席設けられませんでした。それぞれの場所、想いで皆さんご覧になられたのではないかと思います。改めて一日でも早い復興を願っています。